

2023年1月4日

各位

ENEOSホールディングス株式会社

ENEOS株式会社

### 新年にあたっての社長メッセージ（要旨）について

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

当社（社長：齊藤 猛）は、本日、新年にあたり、当社社長 齊藤 猛のグループ社員に向けた動画メッセージを配信しましたので、要旨を下記の通りお知らせいたします。

#### 記

#### 1. はじめに

私たちを取り巻く環境は、社会や人々のニーズの変化、脱炭素に関する社会からの要請の高まり、そして、デジタル化の進展によって、変化のスピードを加速させている。また、新型コロナやウクライナ情勢、米国の金融引き締め等の影響により、足元でも、世界的な大きなうねりが起きている。

変化の激しい事業環境の中、ENEOSグループが勝ち残るためには、前例にとられない抜本的な改革を、スピード感をもって、グループ全体で推し進める必要がある。

このような状況の中、今後、私が未来に向けて取り組んでいきたい活動について以下の通り申し上げます。

#### 2. 第2次中期経営計画の進捗

2020年度から進めている第2次中期経営計画に基づき、エネルギー、石油・天然ガス開発、金属およびその他の事業領域において、「事業ポートフォリオの見直し」・「技術立脚型事業の獲得・拡大」・「次世代型エネルギー供給・環境対応」といった施策を着実に進めてきている。

石油・天然ガス開発事業と金属事業については、資源価格や為替の影響を捉え、一定の収益を確保できている。一方、エネルギー事業に関しては、製油所トラブルの発生、電気の調達コスト増や石油・石油化学製品の市況影響を受け、極めて厳しい状況にある。

現状では、エネルギー事業がグループ全体のブレーキとなっているため、本年度が最終年度となる第2次中期経営計画の目標達成には、即効性のある追加の損益改善策を速やかに講じる必要がある。

#### 3. 第3次中期経営計画の策定

現在、進めている第3次中期経営計画の策定では、長期ビジョンで示した2040年の「ありたい姿」の実現に向け、いつ・どこで・何をするかについて、5年・10年の時間軸で、経営のグランドデザインや事業ポートフォリオの見直しも検討している。

経営管理の方法については、資本効率を重視した事業評価を行っていく。また、ENEOSグループの「ありたい姿」そのものについては、全てのグループ社員が共感し、そして、自分事として実践できるための仕掛けを準備している。



エネルギー事業のうち、喫緊の課題である製油所の安定稼働については、トラブル原因を取り除くための要素を洗い出しており、足元ですぐできることも含め、短期・中長期の施策を進めていく。ビジネスプロセス改革は、およそ50の分野でワーキングを立ち上げ、各部門が主体的に活動している。

第3次中期経営計画は本年春頃に発表する予定だが、その際には、ここで伝えたものに限らず、多くの改革を示し、私が率先して、それらを推進していく。雨垂れが石を穿つが如く、自らの言動でこれを示し続けていく。

#### 4. 企業風土改革

私が社長就任時に掲げた3つの大きな使命のうち、『変革と挑戦の企業風土の醸成』が最も重要と考えている。ENEOSグループの全員が「自律的に変わり続ける」という意識を持ち、グループ全体で社会の発展と活力ある未来づくりに貢献していこう。

#### 5. 最後に

私たちが取り扱っている商材は、エネルギー・素材が中心。しかし、その提供価値の本質は、『モノを動かすこと』・『温めること』・『明るくすること』・『モノ自体を提供すること』。

こうした社会生活の根源、言い換えるとヒトの命を支える価値を、いつ・いかなるときも、社会に責任を持つ立場で、安全に・安定的に・効率的に提供していくこと、それこそがENEOSグループの本質。

全てのグループ社員がその本質を胸に、主体的に、永続的に変化し続けることが真の改革である。

ENEOSグループ全体で強固な一体感を作り、全員で未来に向けて邁進していこう。

以 上